

## 青森県立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課  
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成22年度青森県立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査を3月16日(火)に実施し、2,403人が受検した。

学力検査の実施教科は、国語、数学、英語で、検査時間は各教科とも40分、配点は各教科とも100点満点である。前期選抜とは異なり、国語、英語に放送による検査問題は実施していない。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表(後期)に示す結果となった。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成22年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表(後期)

教科 得点区分	国語		数学		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	4	0.2	4	0.2
90~99	14	0.6	36	1.5	164	6.8
80~89	179	7.4	156	6.5	240	10.0
70~79	466	19.4	260	10.8	226	9.4
60~69	539	22.4	322	13.4	205	8.5
50~59	504	21.0	378	15.7	207	8.6
40~49	354	14.7	345	14.4	208	8.7
30~39	216	9.0	302	12.6	294	12.2
20~29	83	3.5	260	10.8	390	16.2
10~19	35	1.5	229	9.5	364	15.1
0~9	13	0.5	111	4.6	101	4.2
0(再掲)	1	0.0	5	0.2	4	0.2
受検者数	2403	100.0	2403	100.0	2403	100.0
平均点	57.9		47.4		46.6	
標準偏差	16.5		22.6		27.0	
最高点	97		100		100	
最低点	0		0		0	

\*得点一覧表の各教科の値(%)は、全受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表しています。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合があります。

## 国語(後期)

①は漢字の問題で、前期と同様に(1)は読字及び書字、(2)は同音異義語の選択である。(1)の読字では、ウ「摩耗」の正答率が最も低かった。誤答例としては、「耗」を正しく読めず「しょう」などとしたものが多かった。書字では、カ「晩秋」、ク「忠誠」などの正答率が低く、文脈にふさわしい語が思いつかなかったようである。キ「余念」は「余」を「予」としたものが誤答の大部分を占めた。また、(2)の同音異義語を選択する問題では、ウ「刺す」の正答率が全ての問題の中で最も高かったが、それ以外の正答率はあまり伸びなかった。日ごろから、意味の違いにも注意しながらこまめに辞書を引く習慣を身につける必要がある。

②は、道の駅でのインタビューを想定し、言語に関する基礎的な知識・技能と、それを日常生活の中で活用する力をみる問題である。(1)、(2)はいずれも基礎的な知識を問う問題であったが、正答率はやや低かった。(3)は、状況をふまえて質問を考える問題であるが、答えが質問になっていない誤答が見られた。

③は、福田隆浩『熱風』からの出題である。(1)の文中の空欄にふさわしい会話文を補う問題や、(2)、(3)の文脈にふさわしい語句の意味を考えて選択する問題、(4)の登場人物の主張をまとめる問題の正答率は高く、内容をよくとらえていることがうかがえる。(5)の心情を説明する問題は、「眉間に皺を寄せる」という動作が表している内容をふまえずに解答しているために得点に結びついていないものが多かった。(6)の描写の効果について説明する問題は、新傾向であったために戸惑いがあったようである。自分の考えを書くにあたって、自由に想像したことだけで書くのではなく、本文中の記述を根拠にすることが大切である。

④は、三好由紀彦『深海魚は海を知らない』からの出題である。(2)の接続語の問題はよくできていたが、同じく基礎的な問題であるにもかかわらず、(1)の否定の接頭語を選ぶ問題や(4)の品詞の類別の問題は正答率が低かった。(6)の指示語の問題は、指示内容が後ろにあることに気づかず、前の部分から探そうとした誤答が多かった。(7)の文章の展開に即してキーワードを選択する問題は、CとDを逆に答えているものが見られた。二つの事柄を対比させながら論理が展開していく文章は、対立するキーワードを正しくとらえながら読み進めることが大切である。

⑤は、李白の『黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る』についての出題である。(1)の漢詩の中の「故人」の指す人物名を答える問題、(2)の書き下し文にする問題の正答率は高かった。(3)の漢詩に描かれた情景を説明する問題では、誤答例として、内容を誤ってとらえているもの、傍線部をそのまま書いているものも多く見られた。

前期と同様、国語では、条件に即して適切に表現する力や文章に即して内容を理解する力に加えて、文章の構成や表現の仕方にも着目して文章をとらえる力を育成することが求められる。特に、基礎的・基本的事項の確実な定着を図るためには、毎日の積み重ねが大切である。

問題別正答率 国 語（後期）

問題番号	配点	問題の内容	正答率%	問題番号	配点	問題の内容	正答率%							
1	ア 1	読	常用漢字を読む。	託児	88.5	3	4	文学的文章	文章の展開に即して内容をとらえる。	86.6				
			"	皆目	64.1				(2)	4	文脈の中における語句の意味をとらえる。	87.7		
	イ 1	"	"	摩耗	38.5		(3)	4	文脈の中における語句の効果的な使い方を理解する。	93.0				
			ウ 1	"	"		赴	55.6	ア 4	文章の展開に即して内容をとらえる。	74.5			
	エ 1	"			"		業	88.5		イ 4	"	83.1		
			オ 1	書	学年別漢字配当表の漢字を書く。		晩秋	40.4	(5)		4	文章の展開に即して主題を考えて書く。	11.3	
	カ 1	"			"		余念	45.9	(6)	8	文章に表れているものの方や考え方を理解して書く。	17.5		
			キ 1	"	"		忠誠	42.1	4	4	説明的文章	(1)	4	熟語の成り立ちについて理解する。
	ク 1	"			"		散	68.3				(2)	4	書き手の論理の展開の仕方をとらえる。
			ケ 1	"	"		歯切	49.5		(3)		4	文章の展開に即して内容をとらえる。	49.9
	コ 1	"			"		会心	49.3		(4)		4	単語の類別について理解する。	22.9
			ア 1	同音異義語	同音異義語を選択する。		好演	45.0		(5)		4	文章の展開に即して要旨をとらえる。	41.7
	イ 1	"			"		刺	97.7		(6)		4	文章の展開に即して内容をとらえて書く。	37.7
			ウ 1	"	"		理	41.3		C 2		文章の展開に即して内容をとらえる。	29.8	
エ 1	"	"			過	66.9	D 2	"				57.3		
		オ 1	"	"	過	66.9		(8)		4		文章に表れているものの方や考え方を理解する。	29.3	
2	3			言語事項	助動詞の働きを理解する。		63.5	5		3		古典	(1)	3
		慣用句の意味や用法を理解する。			57.5	(2)	3						漢文のきまりに従って読む。	77.8
		話題や方向をとらえて的確に話したり聞いたりする。			48.7	(3)	3						漢詩の内容をとらえて書く。	10.2
		話合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞いたりする。			67.7									

## 数 学 (後期)

①は、基礎的な知識や技能を問う問題である。(1)ア、イは正答率が高かった。エの多項式の除法では $x \div x$ を0ととらえた誤答「 $8x$ 」が目立った。(3)の等式の変形は、分数の式変形をうまく行うことができず、誤答が多岐にわたった。(4)の因数分解の問題では、 $y$ を書いていない誤答「 $(x-7)^2$ 」が多かった。(5)の関数 $y=ax^2$ の $y$ の値を求める問題では、 $y$ は $x$ に比例するととらえた誤答「 $-18$ 」が目立った。(6)の反比例の変域を求める問題では、負の数の大小を取り違えた誤答「 $-3 \leq y \leq -9$ 」が目立った。このように、(1)～(6)において、計算方法や数量関係の知識についてきちんと理解していないために、間違いに気づかない傾向が見られた。(7)の平行線の性質などを用いて角の大きさを求める問題では、 $\angle x$ を根拠にもとづかない直観で判断した誤答「 $80^\circ$ 」が多かった。(8)は正四角すいの各辺にねじれの位置にない実線を2本、あるいは3本書き込むなど多岐にわたる誤答があった。展開図から、正四角すいの見取図をかいて、展開図と見取図から空間図形のもつ性質を考察する力が求められる。

②は、数学的に表現する力、処理する力をみる問題である。(1)については、「ア」を選択した誤答が目立った。 $a$ の平方根が $\pm\sqrt{a}$ であることをきちんと認識する必要がある。(2)は、問題文の意味を理解し、連立方程式を立て、解を求めることができていた。(3)の台形の面積を求める問題では、高さを $8\text{ cm}$ ととらえた誤答「 $64\text{ cm}^2$ 」が目立った。(4)については誤答が多岐にわたった。面積や体積を求めるためには垂線の長さが必要であるため、補助線をひいて三角形をつくり、三平方の定理を利用するという数学的な見方や考え方の育成が求められる。(5)アの直線の式を求める問題では、直線①を直線 $AB$ ととらえた「 $y=2x-3$ 」、イについては、点 $C$ の $x$ 座標の誤答が目立った。平行四辺形の向かい合った辺は平行であるということを理解してはいるが、長さが等しいということを理解していないことがうかがえる。ウについては誤答の約7割が無答であった。平行四辺形が点対称な図形であり、点対称な図形では対称の中心によって面積が2等分される性質を活用する力が求められる。

③は、筋道を立てて思考、判断する力を問う問題である。(1)アについては誤答の約6割が無答であった。垂線の作図については、作図の手順だけでなく、その意味を理解する必要がある。イの三角形の相似の証明の問題では、対応する角の位置を間違えたり、相似条件を合同条件と取り違えた誤答が目立った。(2)アについては、誤答の約7割が無答であり、イについては、約6割が無答であった。(2)を解くためには、 $\triangle ABC \sim \triangle QBP$ より、 $BQ = \frac{4}{3}x$ と表すことが必要である。相似比を利用して辺の長さを文字式で表し、それを用いて面積や体積を表す力が求められる。

④は、数学的な見方や考え方をを用いて解決する力を問う問題である。(1)、(2)において誤答の約5割が無答であった。実際に2、3の例を想定して表へ数を書き込み、操作の規則性を見いだすことが大切である。(3)アにおいては、誤答の約6割が無答であった。表の合計が、大きいサイコロの出た目の数の6倍と小さいサイコロの出た目の数の12倍との和になっていることを(1)、(2)の操作を通して見だし、事象を文字式に表す力が求められる。イについては、誤答の約6割が無答であった。この問題では、アで求めた $6x+12y$ が30と等しくなることを利用する。しかし、操作の規則性から表の合計が30になるときの大小のサイコロの目の組み合わせを、書き込み作業を通して求めた受検生が多かったと思われる。

数学では、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、形式的な処理だけではなく、その意味の理解を図ること、数学的な見方や考え方を伸ばすこと、事象を数理的に考察し数学を活用する力を育成することが求められる。

問題別正答率 数 学 (後期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率%	問題番号	配点	問題の内容	正答率%		
1	(1)	ア 3	正負の整数の計算 (加減)	95.8	3	ア 4	作図	53.1	
		イ 3	正負の整数の計算 (乗法)	98.1			イ 3	④ 1	50.1
		ウ 3	正負の整数の計算 (累乗)	77.2				① 1	26.8
		エ 3	多項式の除法	48.6				⑤ 1	36.9
		オ 3	展開	79.5		② 1		47.4	
	(2)	4	一次方程式	80.6	(2)	ア 3	相似	2.1	
	(3)	4	等式の変形	42.7	イ 3	二次方程式	1.6		
	(4)	4	因数分解	56.9	(1)	3	確率	37.1	
	(5)	4	関数 $y = ax^2$	56.2	(2)	4	数量	確率	19.4
	(6)	4	反比例	53.1	イ 4	4	図形	文字式	6.8
	(7)	4	平行線の性質・円周角の定理	33.0				二元一次方程式・確率	12.3
	(8)	4	空間図形	63.5					
	2	(1)	4	平方根	34.7				
(2)		ア 2	数式	76.4					
		イ 2	連立方程式の利用	66.8					
(3)		4	三平方の定理	28.1					
(4)		4	図形	回転体・平方根の計算	23.4				
(5)		ア 4	比例	56.1					
		イ 4	数量	一次関数	37.6				
	ウ 4	一次関数・平行四辺形の性質	6.7						

## 英 語 (後期)

①は、英文を読んで空欄に入る最も適切な英語を1語書く問題である。文章の内容は概ね理解できていることはうかがえたが、glandmother、black farst、Foll、Thursday などのような綴り間違いが誤答の大半を占めた。

②は、英作文の問題である。(1)は、対話が完成するように提示された語を並べかえるものである。特に正答率が低かったのはイとエであった。イにおいては made cake とした誤答が多かった。またエの誤答例としては asked to carry him、asked to him のように ask/ tell/ want +人+to 不定詞の理解が不十分であると思われるものが多かった。(2)は、日本語を英語になおす問題である。1の誤答例としては enjoy の後が動名詞でない I enjoy to play the piano. や 接続詞を用いていない I like music, I enjoy to play the piano のようなもの、2では、I want to be a doctor help for sick people. や I want to be a doctor because I save sick people. などのように to 不定詞を正しく使えないものが多く見られた。

③は、ホームステイ先での対話を完成させる問題である。対話の意味が通るように適切な文を選ぶ(1)の正答率が比較的高いことから、対話の流れはある程度把握できていると思われる。一方、前後の文意を読み取った上で適切な英文を書く力が求められる(2)においては、正答率が総じて低かった。アにおいては、後の At Sunny Store. から考えて Where で始めてはいるものの、文意にあわない英文が見られた。また、ウにおいては、What is color do you buy? のように疑問詞の後に名詞がくる表現の定着が十分でないものが多く見られた。

④は、外国人教師のスピーチを題材とした問題である。本文の内容に合う日本語を選ぶ(1)では、内容は概ね理解できているが、3つすべてを正しく答えることができなかったものが多かった。本文の内容に関する英問英答の(2)の1は、Yes で答えてはいるものの、疑問文の主語を適切な代名詞に置き換えていないものが目立った。2においても It's five times. Five times did. They bring …のような主語と動詞の不一致や時制などの間違いが見られた。3は、Yes / No で答えずに、The parents thought…や They worried…の一文をそのまま抜き出したものが多かった。

⑤は、主人公を変えた励ましの言葉という主題の長文である。(1)のウとエの正答率が比較的高かったことから、断片的な内容やある程度の概要はとらえられていることがうかがえる。しかし、あき子の心情を答えたり、デイビッドが試合前にあき子のところに行った理由を答えるアとイにおいてはいずれも正答率が5割を下回った。また主題を選ぶ(2)、本文の内容にあうように適語を選んで要約文を完成させる(3)でも誤答が多岐にわたったことから、物語の中心となる部分の読み取りの正確さ、深さが十分ではないと思われる。(4)は、あき子がセッターを務めた後に思ったことを本文から抜き出す問題であるが、試合の前にあき子が考えたことを示す文である Akiko thought…で始まる文を本文から抜き出した答えや日本語で答えている例が多く見られた。

対話文や物語の大まかな流れはある程度把握しているが、英語で正しく表現する力や文章を読んで要点を理解する力が求められる問題の正答率は低い傾向にある。文章を読むにあたっては、内容の事実関係や順序を整理し、正確に理解することができるよう指導をすること、また、基本的な文法事項は、授業の様々な言語活動の中で繰り返し取り上げ、一層の定着を図ることが必要である。

問題別正答率 英語（後期）

問題番号	配点	問題の内容	正答率%	問題番号	配点	問題の内容	正答率%	
1	ア	リーディング・ライティング 英文を読み、空所に入る適切な語を書く。	37.8	4	(1)	リーディング 本文の内容に合った日本語を選ぶ。	38.7	
	イ		26.2		1		36.7	
	ウ		43.2		2		9.5	
	エ		37.6		3		33.7	
	オ		39.0					
2	(1)	ライティング 対話が成立するように、語を並べかえる。	66.4	5	(1)	リーディング 本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	46.6	
			37.7				イ	39.9
			54.5				ウ	52.6
			39.3				エ	61.9
			50.0				(2)	空所に入る適切な語を選ぶ。
	(2)	日本語を英文に直す	21.1	(3)	ア	ライティング 英文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	43.9	
			14.1				イ	52.5
							(4)	該当する箇所を本文から抜き出して書く。
3	(1)	リーディング 対話文を読み、空所に入る適切なものを選ぶ。	41.8	5	(4)	ライティング 該当する箇所を本文から抜き出して書く。	18.7	
			72.8					
			46.2					
	(2)	ライティング 対話文を読み、空所に入る適切な表現を英語で書く。	8.3					
			29.8					
			14.8					